

虚子記念文学館投句特選句・令和八年一月

稲畑廣太郎 選

この世いま私の世界寝正月

兵庫 山之口倫子

日の囃す青へ雪雲入れ替はる

岡山 石井宏幸

たまたまの旅大寒の京にあり

新潟 安原 葉

臘梅や天の細工の芳しき

神奈川 小林 心

師の好きな色着て偲ぶ初句会

兵庫 森岡喜恵子

黄金の架け橋海に初日の出

埼玉 小田毬藻

ゆくりなくかをりを辿り探梅行

神奈川 金子三奈乃

行間の心なまめく懸想文

大阪 須知香代子

グランドの沍てスパイクの跡ばかり

兵庫 藤丸慎士

宿題をたくさんしよう松かざり

滋賀 太田 慈

(青少年)

(青少年)

入選句・令和八年一月

大学の実験室の嫁が君	大阪	河辺さち子	冬の月拍子木叩きパトロール	奈良	堀ノ内和夫
冴ゆる夜の紅茶多めにブランデー	兵庫	玉手のり子	上賀茂の神馬しづしづ淑気満つ	三重	池本準一
魂の抜けて止まりぬ喧嘩独楽	大阪	多田羅紀子	冬紅葉吾れの忽ち絵の中に	愛知	中野ひろみ
淀川に三日の夕日漂ひぬ	兵庫	池田文子	氷る夜の蛇口を緩め置くことに	三重	松村咲子
紅梅の蕾ふくらみ汀子祭	奈良	堀田建夫	御慶伸ぶ先づ虚子館に俳磚に	兵庫	奥田好子
初日受く青き地球の裏表	奈良	堀田ますみ	清浄な芦屋の松の淑気かな	兵庫	谷本逸歩
父母の春著の記憶ある昭和	京都	山崎貴子	活気呼ぶ室の梅置く魚市場	石川	白根寿子
良き夢の続き見たくて寝正月	大阪	ふじもと言果	初暦記し未来の動き出す	奈良	山口廣世
数へ日の所作に広がる白布かな	兵庫	吉田知子	師の愛に包まるる館初句会	兵庫	西村正子
愛唱歌鄙家に響く冬の夜	大阪	深森明鶴	初旅や海の向うに明日が見え	大阪	立入宮子
幼子の目の色揺るる独楽廻し	大阪	森重深鶴	待春の日ざし芦屋を先導す	大阪	石橋玲子
白鳥のとほく船酔ひごこちかな	大阪	押見げばげば	婚活のをちさん一人スキーバス	兵庫	上岡あきら
満天の星へ楫火の弾く音	京都	夜寺耕太	月冴ゆるウルフムーンを語りし夜	三重	中島庸子
春雷や皆振動を持つてをり	富山	三河三可	嘴で割る山寺の氷かな	兵庫	長安悦子
一月の朝や神戸を歌ふこゑ	兵庫	杉浦萌芽	上方のどつと弾ける本戎	大阪	北上美佐子
集落の稲荷へ先づは初詣	茨城	杉山 満	俯瞰して初日に染まる茅渟の海	兵庫	平田 恵
レコードの音溝いみじく春近し	大阪	富永武司	里人の黙礼にして御慶かな	兵庫	高野さち
命ある身の幸せや去年今年	兵庫	安橋興二郎	すすぎ物かちんかちに氷る朝	兵庫	小柴智子
仏前に白味噌かほる雑煮椀	東京	清水ぼっぱ	骨折つて心ならずも寝正月	兵庫	小川孝子
無人の厨明るく明るくなほ寒し	千葉	鹿野川小舟	朱鷺色に染まる白波初明り	大阪	杉山千恵子
朝光の館に来る群寒雀	兵庫	川村ひろみ	せせらぎを忘れし芦屋川涸るる	兵庫	涌羅由美
物語る館の歲月大冬木	大阪	谷本房子	小さき手に小さき胼の容赦なく	兵庫	河野ひろみ
幼児の笑へばみんな初笑	兵庫	黒田千賀子	静謐を破る太鼓や修正会	兵庫	岸川佐江
初春や大きく持たむ志	京都	西村やすし	靱に怖怖アルコール消毒	大阪	西尾浩子
			新妻の靱知らぬ手の真白	兵庫	中村恵美

方丈の廊下を磨く胼の指	香川	葛原由起	小柄なるインドの神父春を待つ	兵庫	岩鼻絹子
目の合ひし神の鵜様は籠の中	石川	辰巳葉流	大寒や水音止まる庭の黙	兵庫	辻田あづき
火を消しておでん染む間の庭仕事	兵庫	藤丸千香子	日脚伸ぶ文学館に新企画	兵庫	藤井啓子
初夢の野山を駆けて空を翔び	徳島	多田まさ子	悴みし手で縄跳びに励みし児	兵庫	深尾真理子
滑り切る引退決めしスケーター	兵庫	吉村玲子	ゆどうふや橋田壽賀子の再放送	兵庫	風待フテ
凧を全身で受く橋の上	鳥取	棕 則子	冬の色草に埋もれたすべり台	埼玉	吉田春代
酔の力借りて告白初電話	香川	三宅久美子	冬の夜のクンパルシータ父思ふ	神奈川	斉藤苑子
ふつつと白のさ揺れの粥柱	兵庫	辻 桂湖	椿つばき秋篠寺に伎芸天	滋賀	近江堇花
見上ぐれば風花越しの二月堂	兵庫	槌橋眞美	ゆつくりと花の水やり日脚伸ぶ	愛知	小野 薫
重詰の形ばかりの縁起物	大阪	河村久美子	二年ぶり悴む母をほぐしけり	兵庫	恵島祥一朗
投げ上げてひかる乳歯やしづり雪	鳥取	前田 千	風花のダンスパーティー始まりぬ	兵庫	恵島京子
寒詣昨日とちがふ空の色	兵庫	永沢達明	主催者の長い一言どんど焼き	静岡	いたまき 苙
虚子館の行事多彩に梅早し	大阪	林 曜子	留守番はやさしい誤算日脚伸ぶ	大阪	深森佳鶴
妻が眼を閉ぢ悔やみたる初写真	愛知	海神瑠珂	小さき字で神事の埋まる初暦	三重	水越晴子
買初の大風呂敷に小さき箱	兵庫	足立朱麻	冬日差す睡魔静かに膝に乗る	東京	木村三球
まつさらな日本列島初御空	兵庫	岩水ひとみ	初富士を車窓に首都へ赴任せり	兵庫	伊集院秀樹
風の息去りて色濃き寒牡丹	大阪	棕本望生	広々と大地を照らす寒の月	石川	辰巳昌彦
母は逝く花ひひらぎの散れる朝	兵庫	松本 敬	着ぶくれて見上ぐる駅のスクリーン	愛媛	星月彩也華
震災の記憶新たや寒の水	兵庫	平尾孝子	人はまだ学ばざりしか初不動	神奈川	平野孤舟
日脚伸ぶ館に日溜日の匂ひ	兵庫	田中節夫	独房の宗教二世へも初日	和歌山	中島紀生
弾みたく日射しに覗く竜の玉	兵庫	二瓶美奈子	棒鱈は別皿に盛る節料理	兵庫	キートスばんじょうし
初祓野球少年畏まり	兵庫	福田光博	焚火の輪手つなぎ鬼につかまりて	兵庫	岩永静代
恙なく集ふ幸せ寒の句座	兵庫	山口弘子	ヒートテック三枚重ね大寒波	奈良	豚々舎休庵
年明くる四方を山に囲まれて	三重	瀬川琴女	海のぞむ緩和病棟星冴ゆる	東京	宮村土々
身体ごと飛んでゆきたる歌がるた	兵庫	高橋純子	読初のことばに素直なる心	神奈川	進藤剛至